



検疫有害動植物、輸入検疫措置対象等の見直しの解説資料

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
1. 植物防疫法施行規則別表1(第5条の2関係)							
(1) 検疫有害動植物の追加(1種)							
1	-	<i>Grapevine red blotch virus</i>	ウイルス	インド、大韓民国、アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン、メキシコ	ぶどう属植物の生植物(種子及び果実を除く。)	葉に不定形の病斑や退緑斑を生じ、やがて壊死する。 果実においては熟期の遅延、果皮のアントシアニン量の低下、果汁の化学的組成の変質(糖度の低下や酸味の増加)をもたらす。	
(2) 既存の検疫有害動植物の削除(1種)							
1	-	Grapevine leafroll-associated virus 8	ウイルス	アメリカ合衆国	ヨーロッパぶどう	(ブドウの全ゲノム解析の結果、ウイルスではなくブドウ自体のDNA配列であることが判明。)	検疫有害動植物から削除
(3) 再分類による学名の修正(1種)							
1	-	<i>Ceratocystis fagacearum</i> (ナラ類しおれ病菌)	菌類	アメリカ合衆国	くり属植物及びこなら属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	感染した樹木は維管束組織内の水や栄養分の流れが制限され、枯死に至る。	学名の修正 <i>Ceratocystis fagacearum</i> → <i>Bretziella fagacearum</i>

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要	
2. 植物防疫法施行規則別表1の2(第5条の4関係)								
(1)既存の検疫有害動植物の検疫措置の見直し:2種								
1	20	<i>Pantoea stewartii</i> <i>subsp. stewartii</i> (トウモロコシ萎ちよう細菌病菌)		細菌	中華人民共和国、ベトナム、マレーシア、イタリア、ウクライナ、ポーランド、ルーマニア、アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン、ガイアナ、コスタリカ、プエルトリコ、ペルー、ポリビア、メキシコ	テオシント及びとうもろこしの種子であつて栽培の用に供するもの	全ての栽培用のトウモロコシは感染するが、垂種、交配種、近交種及び品種によって感受性は異なる。スイートコーンの感受性の品種では苗の段階で感染すると急速に萎ちようする。	・検疫措置の追加: 規則別表1-2から2-2へ移動し、輸出国における栽培地検査に精密検査(PCR法)の選択肢を追加
2	23	<i>Broad bean true mosaic virus</i> (ソラマメトルーモザイクウイルス)		ウイルス	中華人民共和国、シリア、レバノン、イタリア、英国、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、エジプト、エチオピア、スーダン、チュニジア、南スーダン、モロッコ	そらまめの種子であつて栽培の用に供するもの	葉が斑紋やモザイク症状を生じ、収量が減少する。種子に斑点や褐色の壊死斑等が生じる。また、葉のモザイクや植物体の生育阻害萎縮等を引き起こし、収量が低下する。	・検疫措置の追加: 規則別表1-2から2-2へ移動し、輸出国における栽培地検査に精密検査(ELISA法)の選択肢を追加
(2)既存の検疫有害動植物の対象地域、対象植物の追加等:6種								
1	2	<i>Tuta absoluta</i> (トマトキバガ)		害虫 (キバガ科)	アジア、中東、欧州、アフリカ、中南米	いんげんまめ、きだちたばこ、しまほおずき、しるばなようし、ゆちようせんあさがお、たばこ、つのみちようせんあさがお、とうがらし、トマト、はこべほおずき、くこ属植物及びびなす属植物の生葉並びにしまほおずき及びトマトの生果実	幼虫が寄主植物の茎葉、果実等に寄生(内部又は外部寄生)。穿孔された果実は果実腐敗が起こる。また、生長点の加害は植物の生長を阻害する。	・地域の追加: 台湾、中華人民共和国、パキスタン、アフガニスタン、アルメニア、カザフスタン、スロバキア、トルクメニスタン、モルドバ
2	5	<i>Meloidogyne fallax</i> (ニセコロンビアネコブセンチュウ)		線虫	オランダ、スイス、フランス、ベルギー、オーストラリア、ニュージーランド	アスパラガス、いろはもみじ、おらんがいちご、きくごぼう、きんぐさり、てんさい、トマト、にんじん、ばれいしよ、ゆきげゆり、ようしゆとりかぶと、ヨーロッパしらかんば、ロニケラ・クシロステムム及びびこまくさ属植物の生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの	内部寄生し摂食することで寄主植物の生理機能、収量及び品質に影響を及ぼす。葉の萎ちよう、黄化、壊死、パレイショ塊茎等の栄養器官の表面の病変又は変色、植物全体の矮化、地下部のゴール形成が典型的な症状である。	・地域の追加: 英国 ・植物の追加: リーキの生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの
3	7	<i>Radopholus similis</i> (バナナネモグリセンチュウ)		線虫	アジア、欧州、アフリカ、北中南米、豪州	アボカド、うこん、エピプレムヌム・アウレウム、おくら、キルトスペルマ・シャミツソーニス、クプレッスス・マクロカルバ、ケロシヤ・ニティダ、ココやし、さといも、さとうきび、しょうが、しよくようかん、だいしよ、ちや、とうもろこし、トマト、なす、ばれいしよ、ばんれいしよ、びんろうじゆ、めきしこいとすぎ、らつかせい(さやのない種子を除く。)、カラテア属植物、くずうこん属植物、コーヒーノキ属植物、こしよ属植物、ばしよ属植物、フィロデンドロン属植物、プセファランドラ属植物及びふだんそう属植物の生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの並びにアヌビアス属植物及びアンスリュウム属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	根に寄生して根らし、地上部の生育不良や立ち枯れ等の被害生じる。	・植物の追加: ほうらいしよ属植物の生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの ・地域の表記の修正: ドミニカ共和国、ドミニカドミニカ、ドミニカ共和国 マルチニーク島→マルティニーク

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要	
4	8	<i>Meloidogyne enterolobii</i>	線虫	アジア、欧州、アフリカ、北中南米	あきにいれ、あさ、アセロラ、あぶらつばき、アラビアコーヒー、アンゲロニア・アングスティフォリア、エラエオカルプス・デキピエンス、エンテロロビウム・コントルティシリクウム、オエケクラデス・マクラタ、カリステモン・ウイミナリス、キャッサバ、きゅうり、くずうこん、くちなし、クレロデンドルム・ウガンデンセ、くろみぐわ、くわくさ、けふかわた、ケレウス・ヒルドマンニアヌス、こせんだんぐさ、ささげ、さつまいも、しまほおずき、しょうが、しょうじょうそう、じよおうやし、シロギニアヤム、しろこやまもも、すいか、ステノケレウス・クエレタロエンシス、たまさんご、だんどぼろぎく、ティボウキナ・エレガンス、てりみのいぬほおずき、とうがらし、とうぐわ、トマト、なす、なつめ、なんごくいぬほおずき、にしきじそ、にんじん、パウロウニア・エロンガタ、パオパブ、はなまき、ばらみつ、ばんじろう、ひめのうぜんかずら、ビルソニマ・キドニーフォリア、ペボかぼちや、みばしろう、モルス・セルティディフォリア、ユーフォルビア・ブニケア、ヒロセレウス属植物、やぶらん属植物及びランプランツ属植物の生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの	根内部に寄生して加害し、養水分吸収を妨げ、成長を阻害する。	・植物の追加: しょうじょうぼく(ポインセチア)の生植物の地下部であつて栽培の用に供し得るもの	
5	12	<i>Phytophthora ramorum</i>		菌類	ベトナム、欧州、北米	こなら属、つつじ属、ぶな属等の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	こなら属植物では主幹に感染すると、急速に枯死する。つつじ属、がまずみ属植物では葉や枝に感染し、萎ちよう、枯死を引き起こす。	・地域の削除: スウェーデン ・植物の追加: ひめつるにちにちそうの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの
6	24	<i>Plum pox virus</i> (ウメ輪紋ウイルス)		ウイルス	アジア、中東、欧州、アフリカ、北米、南米	せいようまゆみ、ながばくこ、ようしゆいぼた及びさくら属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの	葉及び果実に輪紋を生じ、寄生果の落下等が生じる。	・地域の追加: ウズベキスタン ・植物の追加: しなのき属植物及びしもつけ属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの
(3)既存の検疫有害動植物の再分類による学名の修正:1種								
1	14	<i>Ceratocystis fagacearum</i> (ナラ類しおれ病菌)	菌類	アメリカ合衆国	くり属植物及びこなら属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	感染した樹木は維管束組織内の水や栄養分の流れが制限され、枯死に至る。	・学名の修正(再掲) <i>Ceratocystis fagacearum</i> → <i>Bretziella fagacearum</i>	

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
3. 植物防疫法施行規則別表2(第9条関係)							
(1) 既存の検疫有害動植物の対象地域の追加及び対象植物の削除等: 6種							
1	2	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex (ミカンコミバエ種群)	 害虫(ミバエ科)	アジア、アフリカ、ハワイ諸島等	かんきつ類、さくら属植物、なす科植物、マンゴウ属植物等の生果実	幼虫が果実内へ侵入し加害すること、果実が腐敗・落果し収量が低下する。	・地域の追加: オマーン、マラウイ、モーリシャス ・地域の表記の修正: マヨット島→マイヨット
2	6	<i>Cylas formicarius</i> (アリモドキゾウムシ)	 害虫(ゾウムシ科)	アジア、アフリカ、北中南米、大洋州	おおばはまあさがお、あさがお属植物、さつまいも属植物及びひひるがお属植物の生茎葉及び生塊根等の地下部並びにキャッサバの生塊根等の地下部	葉、根及び茎に寄生し、その症状として葉では外部摂食、根では外部及び内部摂食、茎では外部及び内部摂食し、摂食により変形する。	・地域の追加: チャコス諸島、オーストラリア領クリスマス島、ココス諸島 ・対象植物の削除: キャッサバの生塊根等の地下部
3	7	<i>Eusepeus postfasciatus</i> (イモゾウムシ)	 害虫(ゾウムシ科)	中華人民共和国、北中南米、大洋州	あさがお属植物、さつまいも属植物及びひひるがお属植物の生茎葉及び生塊根等の地下部	主に幼虫が茎及び塊根を食害し、茎葉の奇形、塊根の変色等の被害を引き起こす。	・地域の追加: ノーフォーク島
4	11	<i>Globodera pallida</i> (ジャガイモシロシストセンチュウ)	 線虫	欧州、南米、カナダ	ばれいしょ等ナス科植物の地下部	根の加害により生育が阻害され、葉の縮れや黄化等の症状がみられ、やがて枯死し、収量が減少する。	・地域の追加: モロッコ
5	16	<i>Erwinia amylovora</i> (火傷病菌)	 細菌	韓国、中東、欧州、アフリカ、北中米、ニュージーランド	なし属植物、りんご属植物等の生植物(種子を除き、生果実、花及び花粉を含む。)	感染樹は火にあぶられたような症状を示し、木全体が枯死する。	・地域の追加: ポルトガル
6	17	<i>Candidatus Liberibacter africanus</i> (カンキツグリーニング病菌アフリカ型) <i>Candidatus Liberibacter americanus</i> (カンキツグリーニング病菌アメリカ型) <i>Candidatus Liberibacter asiaticus</i> (カンキツグリーニング病菌アジア型)	 細菌	アジア、中東、アフリカ、北中南米	アエグロプシス・チヴァリエリ、アタランティア・ミシオニス、カロデンデュラム・カベンシス、グミミカン、クラウセナ・インデカ、シトロンシラス・ウベリ、スウィングレア・グルティノーサ、ぞうのりんご、ツゲコウジ、バルサモシトラス・ダウイ、ミクロシトラス・アウストララシカ、ミクロシトラス・アウストラリス、ウンビ及びさるかけみかん属植物の生植物(種子及び果実を除く。)	本細菌の感染植物の初期症状は、一部の枝の葉に症状が現れ、亜鉛欠乏症のように葉脈やその隣接組織が黄化し、のちに葉全体が黄化する。やがて他の枝にも発病し、進行すると落葉、落果、枝枯れなどが生じる。最終的には、植物全体が衰弱し、枯死することが多い。	・地域の追加: エルサルバドル、グアドループ、トリニダード・トバゴ、パナマ、パラグアイ、ホンジュラス、マルティニーク

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
4. 植物防疫法施行規則別表2の2(第9条関係)							
(1)既存の検疫有害動植物の検疫措置の追加:3種							
1	新規	<i>Bretziella fagacearum</i> (ナラ類しおれ病菌)	菌類	-	-	感染した樹木は維管束組織内の水や栄養分の流れが制限され、枯死に至る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の追加: アメリカ合衆国 ・植物の追加: くり属植物及びこなら属植物の葉、枝、樹皮その他の部分(種子及び果実を除く。)並びにこれらの植物の葉、枝、樹皮その他の部分が微生物その他の生物により分解されて生じた有機物であつて、植物の植込みの用又は植物が生育するための土壌の被覆の用に供するもの ・措置の追加: 園芸資材に対する熱処理を追加
2	移動	<i>Pantoea stewartii</i> <i>subsp. stewartii</i> (トウモロコシ萎ちよう細菌病菌)	 細菌	中華人民共和国、ベトナム、マレーシア、イタリア、ウクライナ、ポーランド、ルーマニア、アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン、ガイアナ、コスタリカ、プエルトリコ、ペルー、ボリビア、メキシコ	テオシント及びとうもろこしの種子であつて栽培の用に供するもの	全ての栽培用のトウモロコシは感染するが、亜種、交配種、近交種及び品種によって感受性は異なる。スイートコーンの感受性の品種では苗の段階で感染すると急速に萎ちようする。	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の追加: テオシント、とうもろこし及びびさときび属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの ・検疫措置の追加: 規則別表1-2から2-2へ移動し、輸出国における栽培地検査に精密検査(PCR法)の選択肢を追加
3	移動	<i>Broad bean true mosaic virus</i> (ソラマメトルーモザイクウイルス)	ウイルス	中華人民共和国、シリア、レバノン、イタリア、英国、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、エジプト、エチオピア、スーダン、チュニジア、南スーダン、モロッコ	そらまめの種子であつて栽培の用に供するもの	葉が斑紋やモザイク症状を生じ、収量が減少する。種子に斑点や褐色の壊死斑等が生じる。また、葉のモザイクや植物体の生育阻害萎縮等を引き起こし、収量が低下する。	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の追加: えんどう及びびそらまめの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの ・検疫措置の追加: 規則別表1-2から2-2へ移動し、輸出国における栽培地検査に精密検査(ELISA法)の選択肢を追加

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
(2)既存の検疫有害動植物の対象地域又は対象植物の追加、修正等:12種							
1	1	<i>Anastrepha fraterculus</i> (ミナミアメリカミバエ)	 害虫 (ミバエ科)	中南米	イエローピタヤ、マンゴウ、みかん属植物等の生果実	幼虫が果実内へ侵入し加害すること で、果実が腐敗・落果し収量が低下する。	・植物の追加: すもも(せいようすももから変更)、パパイヤ(メキシコ産を除く。)、ぶどう属植物(ぶどうから変更)及びりんご属植物(りんごから変更)の生果実
2	5	<i>Anastrepha suspensa</i> (カリフミバエ)	 害虫 (ミバエ科)	アメリカ合衆国(フロリダ州に限る。)、西インド諸島、フランス領ギアナ	なし、りんご、みかん属植物等の生果実	幼虫が果実内へ侵入し加害すること で、果実が腐敗・落果し収量が低下する。	・植物の追加: なし属植物(なしから変更)の生果実
3	6	<i>Bactericera cockerelli</i>	 害虫 (トガリキジラミ科)	アメリカ合衆国(ハワイ諸島を除く。)、カナダ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、メキシコ、ニュージーランド、ノーフォーク島	アルファルファ、さつまいも、せいようひるがお、そらまめ、こだちとまと、たばこ、てんさい、とうもろこし、トマト、においひば、はつかだいこん、ひまわり、レタス、くこ属植物、とうがらし属植物、なす属植物及びほおずき属植物の生茎葉及び生果実	成虫は、主に下方の葉の表面に卵を1個ずつ、合計で約500個産み付ける。成虫や幼虫は、葉全体や果実を吸汁し、粘着性の白い糞便を多量に排出する	・植物の追加: おおせんなり及びしろばなようしゆちようせんあさがおの生茎葉及び生果実
4	8	<i>Bactericera trigonica</i>	 害虫 (トガリキジラミ科)	中東、欧州、アフリカ	セルリー、ぶたくさ及びにんじん属植物の生茎葉	幼虫、成虫が生茎葉を吸汁加害する。細菌(Lso)を媒介する。	・地域の追加: セルビア
5	11	<i>Naupactus leucoloma</i> (シロヘリクチフトゾウムシ)	 害虫 (ゾウムシ科)	南アフリカ共和国、アメリカ合衆国、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ブラジル、ペルー、オーストラリア、ニュージーランド	アルファルファ、おらんだいちご、さつまいも、ばれいしよ、ムクナ・ブルリエンス、もも、らつかせい、きいちご属植物、しやじくそう属植物、ぶどう属植物及びやなぎ属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	根葉及び塊茎作物において、幼虫の摂食により穴が開き、市場価値がなくなる。他の作物では地下部に被害が出ることで生産量が減少する。	・地域の追加: ポルトガル ・植物の追加: たまねぎの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの
6	15	<i>Trioza apicalis</i>	 害虫 (トガリキジラミ科)	モンゴル、イタリア、ウクライナ、英国、エストニア、オーストリア、スイス、スウェーデン、スペイン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベラルーシ、ポーランド、ラトビア、ロシア	イノンド、おらんだざり、クミン、コエンドロ、セロリー、にんじん及びひめういきょうの生茎葉	葉に産卵し、幼虫及び成虫が葉を吸汁する。展開した葉を加害し、変形を伴う虫こぶを形成する。	・植物の追加: ヘラクレウム・スフォンディリウムの生茎葉

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
7	17	<i>Phytophthora ramorum</i> 	菌類	ベトナム、欧州、北米	こなら属、つつじ属、ぶな属等の生植物(種子及び果実を除く。)の葉、枝、樹皮その他の部分並びにこれらの植物の葉、枝、樹皮その他の部分が微生物その他の生物により分解されて生じた有機物であつて、植物の植込みの用又は植物が生育するための土壌の被覆の用に供するもの	こなら属植物では主幹に感染すると、急速に枯死する。つつじ属、がまずみ属植物では葉や枝に感染し、萎ちよう、枯死を引き起こす。	・地域の削除: スウェーデン ・植物の追加: ひめつるにちになちそうの生植物(種子及び果実を除く。)の葉、枝、樹皮その他の部分(種子及び果実を除く。)並びにこれらの植物の葉、枝、樹皮その他の部分が微生物その他の生物により分解されて生じた有機物であつて、植物の植込みの用又は植物が生育するための土壌の被覆の用に供するもの
8	20	<i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i> 	細菌	中東、欧州、アフリカ、北中南米、大洋州	あめりかぼうふう、おおぶどうほおずき、おらんだぜり、きだちとうがらし、こだちとまと、しまほおずき、セロリー、ソラヌム・エラエアグニフオリウム、ソラヌム・ドウルカマラ、たばこ、チャービル、とうがらし、トマト、ながばくこ、なす、にんじん及びばれいしよの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの	生育不良、葉の萎黄及び紫色化並びに変形、過剰着果等を引き起こすとともに、果実の小型化や奇形等を引き起こすことで、収量が減少する。	・地域の追加: 英国、オーストリア、セルビア ・植物の追加: ウルチカ・ディオイカ、エゴポディウム・ボダグラリア、おおいぬたで、しやく、しるぎ、ソラヌム・ウンベリフェルム、ファロピア・コンウォールウルス、ヘラクレウム・スフォンテリウム、やえむぐら属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供するもの
9	24	<i>Potato spindle tuber viroid</i> (ジャガイモやせいもウイロイド) 	ウイロイド	アジア、欧州、アフリカ、北中南米、大洋州	とうがらし、トマト、はりなすび、ばれいしよ及びベチュニア属植物の種子であつて栽培の用に供するもの並びにアトリプレクス・セミルナリス、アポカド、いぬほおずき、おおせんなり、コニザ・ボナリエンス、しまほおずき、ストレプトソレン・ジェイムソニー、せんなりほおずき、ソラヌム・ラントネットー、ダツラ・レイクハルティー、たまさんご、つるはななす、とうがらし、トマト、はりなすび、ばれいしよ、ペビーノ、ラゴディア・エレマエア、カリブラコア属植物、ケストルム属植物、ダリア属植物、ブルグマンシア属植物及びベチュニア属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの	パレイシヨの茎葉に矮化、エピナスティ(葉の上偏生長)、縮葉、直立化、濃緑化を引き起こし、塊茎に亀裂、細長化、芽数の増大を起こし収量が減少する。また、トマトに株の萎縮、上偏生長、縮葉、葉脈及び茎部のえそ等を伴う症状を引き起こす。	・地域の追加: パキスタン、カザフスタン、ウガンダ、ケニア ・植物の追加: こだちとまと、ソラヌム・アングイビ、ソラヌム・コアグラリス、ソラヌム・ダシフィルム、バラゴムノキ、ストレプトグロッサ属植物、ダツラ属植物(ダツラ・レイクハルティーから変更)の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの
10	25	<i>Pepino mosaic virus</i> 	ウイルス	中華人民共和国、中東、欧州、カナリア諸島、南アフリカ共和国、モロッコ、北中南米	トマトの種子であつて栽培の用に供するもの並びにあらげしゆんぎく、いぬほおずき、エキウム・クレティウム、エキウム・フミレ、きだちたばこ、けちようせんあさがお、ケノボディウム・ムラレ、コニザ・アルビダ、シシプリウム・イリオ、タラクサクム・ウルガレ、ディプロタクシス・エルコイデス、トマト、パツシア・スコバリア、ばれいしよ、ピプタテルム・ムルティフォルム、ひろはひるがお、ペビーノ、ほんきんせんか、めぼうき、モリカンディア・アルウエンシス、ようしゆきだちるりそう、おおばこ属植物、オノボルドウム属植物、ぎしぎし属植物、コロノプス属植物、せいようひるがお属植物、ぜにあおい属植物、のげし属植物及びひゆ属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの	トマトに感染すると生果実のモザイク症状や成熟の遅延を招く。パレイシヨでは、葉にモザイク症状又はモットル症状、ペビーノでは、葉にモザイク症状又はひだ葉症状を示す。	・地域の追加: ニュージーランド ・植物の追加: リコベルシコン・クメリエウスキー、リコベルシコン・バルウイフォルムの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの

No.	項	有害動植物 学名(和名)	分類	主な対象 (発生)地域	主な対象(寄主(宿主))植物	主な症状・被害	見直しの概要
11	37	<i>Tomato leaf curl New Delhi virus</i>	ウイルス	インド、インドネシア、スリランカ、タイ、台湾、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、イラン、イタリア、エストニア、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、アルジェリア、セーシェル、チュニジア、モロッコ	あまめしば、いぬほおずき、エクバリウム・エラテリウム、おくら、カロトピス・プロケラ、きゅうり、クローン・ボンブランディアナム、けし、ケナフ、けぶかわた、コッキニア・グランディス、ささげ、しろばなようしゆちようせんあさがお、すいか、だいず、たかさぶろう、とうがん、とかどへちま、トマト、なす、にがうり、にほんかぼちや、にんじん、のげし、パパイヤ、はやとうり、ばれいしょ、へちま、ペポかぼちや、メロン、モモルディカ・ディオイカ、ゆうがお及びとうがらし属植物の生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの	モザイク症状、葉巻、葉脈の膨張、植物体の萎縮が引き起こされる。果菜類において、生育初期にToLCNDVに感染すると、植物は著しく萎縮し、果実生産は大きな影響をうける。	・地域の追加: カナリア諸島 ・植物の追加: クロッサンドラ・インファンディブリフォルミス、しまかんぎく、せいようかぼちや、フィサリス・ミニマ、ペニンカサ・フィストロサの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの
12	41	<i>Tomato mottle mosaic virus</i>	ウイルス	中華人民共和国、イスラエル、イラン、スペイン、チェコ、アメリカ合衆国、ブラジル、メキシコ	とうがらし及びトマトの種子であつて栽培の用に供するもの並びにきだちとうがらし、とうがらし、トマト及びなすの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの	葉に壊死、緑色の濃淡となるモザイク、モットル、奇形等の症状を示し、全身に萎ちよう等の症状が現れる。果実にあそ斑を生じ、壊死が見られ、収量が減少する。	・植物の追加: えんどうの生植物(種子及び果実を除く。)であつて栽培の用に供し得るもの